

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)								
														(N 値)	(値)																		
		-56.97	90.55	花崗斑岩		Eg	vlg	dg	δ	3	90.14~90.55m: 硬質な砂状部と硬さ「D」主体の硬質岩片からなる砂状部。一部で割れ目が残留している。	0	D'																				
		-57.18	90.85	コア欠如	明褐灰						90.55~90.85m: スライム。	0																					
91					灰白 淡黄緑						90.85~91.00m: 硬質岩片のみ採取され、蓋質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。 ●91.35~91.54m: 破砕部 91.35~91.43m: 粘土質砂状部 (Hb) 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの粘土化~砂状化した岩片を30%程度含む。軟質。灰白~にふい黄褐色を呈する。幅60mm。 91.43~91.44m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜25°で、上端は湾曲して、下端は波打って連続。径1mmの石英粒をごくわずかに(5%以下)に含む。軟質。灰白色を呈する。幅7~10mm。 91.44~91.51m: 粘土質砂状部 (Hb) 上端25°、下端18°とともに波打って連続。径5mm前後の硬さ「D」岩片を30%程度含む。少し風化してやや軟質である。淡黄褐色を呈する。幅30~60mm。 91.51~91.54m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多く、径5mm程度の硬さ「D」の岩片に細片化する。岩片間には軟質粘土が分布する。にふい褐色を呈する。幅20~25mm。 91.54~92.85m: D 径10mm前後の硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟質化が著しい。92.00m以深は石英以外は砂状化する。 91.54~91.59m: 上端20°、下端6°の割れ目間が強く変質し、淡黄色の砂状部を呈する。 91.59~91.67m: 上端8°、下端32°の間は珪化部で硬質である。マンガン鉱染により、全体が黒色化する。 92.71~92.85m: 上端68°、下端40°の間は灰白色粘土が網目状に分布する。 92.85~93.66m: CL 70~80°の割れ目が多く、割れ目沿いに幅1~3mm程度の砂状部~粘土化部を挟む。 93.66~93.86m: D 上下端80°の割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。 93.86~99.50m: CL 50~70°とこれに直交する40~50°の割れ目が多い。94.43m以深は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。 94.25~94.31m: 10~20°の割れ目に囲まれ砂状部を呈する。 94.43m以深は岩片自体は硬さ「B」も多く含むが、割れ目が10~20mm程度の間隔で交差するため細片化する。割れ目の一部はマンガン鉱染を受ける。	0	D'																				
92				花崗斑岩	にふい橙	Eg	vlg	dg		δ		0	D'																				
93						Dg	vlg	cg		3		0																					
94					灰褐	Eg	vlg	dg				0	CL'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水深平均値)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 庄 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
														(N 値 ~ 深度) 図																		
			花崗斑岩	灰褐	Cg	γ				95.50~95.71m: 割れ目から分離し、径10mm前後に細片化する。	2 10																					
96										明褐灰																				Vs		
97				Dg	cg	δ	3				96.52~97.60m: 30~40°と60~70°の割れ目が交差し前者が後者に止められる。60~70°の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められる。	2 10																				
										花崗斑岩	Cg																			IVs		
98				明褐灰	Vs							97.58~97.69m: マンガン鉱染が進み黒褐色化する。97.69~97.78m: 硬さ「C」の岩片中に硬質な幅1~2mmの白色粘土が脈状~径2~3mmの頭状で分布する。	2 10																			
99										Dg	Vs	γ																		2		
				明褐灰	Vs	cg	γ	2					98.92~99.50m: 硬さ「D」主体。全体に軟質化するが風化、変質は弱い。	2 10																		
										明褐灰	Vs	cg	γ																	2		●99.50~99.68m: 破砕部 99.50~99.56m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目と、これに直交~60°斜交する割れ目で径5~10mmの硬さ「E」の岩片に細片化する。岩片間に幅1~3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56~99.57m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜38°で上下端とも波打って連続。径1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒を10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟在している。やや硬質。灰白色を呈する。幅5~10mm。 99.57~99.68m: 砂混じり岩片状部 (Hj) 上端38°で波打って、下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、径5~20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず、砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐色色を呈する。幅5mm。 99.68~100.50m: CL 硬さ「D」主体。

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	岩級区分	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水深平均値)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)																																																						
												(N値~深度) 図	(N) 値																																																															
116			花崗斑岩	褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3	<p>●115.00~115.12m: 破砕部 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端60°、下端30°でいずれも直線的に連続。上下端とも緑灰色のフィルム状粘土を挟む。径10~30mm程度の岩片主体で岩片間に浅黄色粘土を伴う。岩片には定向配列が見られる場合がある。にぶい橙色を呈する。幅30mm。 115.12~116.80m: CM 堅硬で、寄着度の高いゆる割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 115.90~116.10m: 径5mm前後の橙色のカリ長石が多く分布する。 116.33m : 70~80°で湾曲する割れ目と40°の割れ目が交差する。後者は前者で止められる。再割れ目の一部に幅1mm、交差部に幅5mmの緑泥石シルト~粘土を挟む。70~80°の割れ目沿いの凝結部は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。 116.80~117.32m: CM 一部に硬さ「C」を含むが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。割れ目が多くなるが、ゆる割れ目は寄着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。長石は白濁化するものが多い。挟在物は分布しない。 117.32~117.39m: CL 75°の割れ目沿いに幅20~25mmが風化で軟質化する。 117.39~118.47m: CH 堅硬。一部で割れ目が多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。白色節状のゆる割れ目も多いが、大半は寄着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。割れ目に挟在物は分布しない。 117.65~118.40m: 橙色のカリ長石が多く、全体ににぶい橙色を呈する。 118.20m・75°、118.46m・76°の割れ目が見られ、幅1mm程度の緑泥石シルトを挟む。 118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。長石は白濁化することが多い。</p>																																																																		
117																														花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	<p>119.00~119.11m: CL 風化と変質が進み、全体が軟質化する。 ●119.11~119.25m: 破砕部 119.11~119.16m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。径5~10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟む。にぶい橙~暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16~119.18m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜60°で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質。緑灰色を呈する。幅7~10mm。 119.18~119.25m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とはほぼ平行~これと斜交する割れ目で径2~5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。 119.25~120.10m: CL 風化で全体が軟質化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留する。割れ目の一部に幅2mmの緑灰色の緑泥石粘土脈を挟む。120.02~120.09mは割れ目沿いに砂状化が進む。</p>																																								
118																																																						花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	γ	<p>118.20m・75°、118.46m・76°の割れ目が見られ、幅1mm程度の緑泥石シルトを挟む。 118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。長石は白濁化することが多い。</p>																
119																																																																												
																																																						花崗斑岩	暗緑灰	Dg	Vg	cg	δ	<p>119.00~119.11m: CL 風化と変質が進み、全体が軟質化する。 ●119.11~119.25m: 破砕部 119.11~119.16m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。径5~10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟む。にぶい橙~暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16~119.18m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜60°で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質。緑灰色を呈する。幅7~10mm。 119.18~119.25m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とはほぼ平行~これと斜交する割れ目で径2~5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。 119.25~120.10m: CL 風化で全体が軟質化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留する。割れ目の一部に幅2mmの緑灰色の緑泥石粘土脈を挟む。120.02~120.09mは割れ目沿いに砂状化が進む。</p>																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D cm L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															(N 値)	(N 値 ~ 深度) 図																						
			花崗斑岩		灰白 灰褐色	Eg Vg	dg bg				125.00m以深はゆ着割れ目は殆んど分布しない。		CH'																									
126		125.90~128.05m : CM 堅硬であるが、ゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。割れ目に挟在物は挟まず。ほぼ未風化で新鮮である。ほぼ全区間にわたり、60~90°のゆ着割れ目沿いに割れ目化し、一部はその周辺が片状化する。																																				
127		127.15~127.58m : 80~90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10cm間隔で平行に分布する。全幅約50cmにわたり片状化するが、砂状化や粘土化などの変化は伴わない。									β			2																								
128		128.05~128.78m : CM 堅硬。128.05~129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80~90°の割れ目が波打ちながら連続するが、一部を除き片状化は認められない。																																				
129		128.78m : 33°の割れ目に砂や径2~3mmの細片化岩片を幅1~4mmで挟む。 128.78~129.47m : CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。 129.47~129.84m : CL 密着度の低い潜在割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。																																				
											●129.84~129.91m : 破碎部 129.84~129.85m : 粘土状部 (Hc-2) 傾斜70°で上端は直線的に、下端は波打って断続的。径1~3mmの石英粒、径2~3mmの岩片を10~20%含む。軟質。緑灰色を呈する。幅2~5mm。一方、上端には暗緑灰色の幅0.5mmのフイルム状粘土を挟む。 129.85~129.91m : 粘土質岩片状部 (Hj) 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。径2~5mmに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量が多い。オリープ灰色を帯びた灰白色を呈する。幅25~35mm。 129.91~130.57m : CL 岩片は堅硬であるが、高角度割れ目やゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し、片状化する。割れ目沿いで薄く砂状化するものがある。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	標準貫入 () 試験		室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)																																								
												(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																																																
131			+	灰褐	Og	Vg	cg	2	130.57~131.51m : CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 130.75~130.90m : 幅0.5~5mmの白色方解石が脈状に分布する。	0 50 100 1 24 100	CL'																																																		
												オリブ灰	IVg											γ	3	131.51~132.41m : CH 堅硬・塊状では新鮮。白色筋状のゆ着割れ目が多いが、層状と同一化し、ハンマーの強打でも分離しない。径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。全体が緑泥石化の変質を受けるが、軟質化~粘土化など劣化はない。	2 73 100	CH'																																	
																													灰褐	Bg													bg	β	2	132.41~134.33m : CM 岩片は堅硬であるが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多く、径30mm前後に分離・細片化する部分もある。ほぼ未風化・未変質で下端部を除き割れ目に挟在物は分布しない。 132.76~133.60m : ゆ着割れ目沿いに径30mm前後に分離し易いが、砂や粘土は挟まない。	25 28 100	CM'													
																																																	明オリブ灰	IVg											
オリブ灰	灰褐	明灰						134.33~136.33m : CM 堅硬・塊状で未風化・未変質、ゆ着割れ目は少量分布するが、周囲と同一化し、ハンマーの強打でも分離しない。 134.35m : 70~80° で幅1~2mmの暗緑灰色の緑泥石粘土とその上端に幅15mmの径5~10mmの岩片を挟む。 134.56~134.70m : 緑泥石化により淡緑色化し、オリブ灰色を呈する。 134.85m以深は徐々に径10mm前後で橙色のかり長石が露出する。	11 11 100																																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水深調整)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
															(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値																			
			+	明褐灰							135.76m ~ 80° の割れ目は交差する割れ目の一部を止めている。80° の割れ目に細粒部は認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0 50 100 0 100 6 (26)	CM'																						
136											花崗斑岩	Bg	bg	β	2	135.09m ~ 60°、136.33m ~ 65°、136.56m ~ 60° で前2者は幅1~2mmの緑泥石付着。後者は石英脈が密着して分布する。粘土化や砂状化は伴わない。	15 (58)	CH'																	
137																緑灰	IIIg			137.52~137.62m: ベグマタイトで、晶洞中に石英、橙色のカリ長石、緑泥石などが晶出する。	27 (123)	CH'													
138											花崗斑岩	Bg	bg	β	138.35m、138.50m: ゆず割れ目沿いに開口割れ目化する。					52 (152)	CH'														
139															明褐灰	IVg			139.02~139.21m: 緑泥石により緑灰色化する。																
							139.37m: 70° で幅2~3mmの脈に緑泥石と石英が共生して分布する。径0.1mmの微細な黄鉄鉱も点在する。																												
								139.66~139.96m: CM割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。																											
								139.96~140.39m: CH																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
													(N値~深度) 図																										
			+	明褐灰	緑灰				140.13m~65°の割れ目沿いの一部が細片化するが、軟質化など劣化はない。	0	GH'																												
									III s																														
									IV g							13																							
									III s							6																							
			+	灰褐	緑灰				141.40~142.00m: 径20mm前後の斑模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。		GH'																												
									III s							6																							
			+	灰褐	緑灰				141.97~147.08m: CM 割れ目はやや多いが、岩片は堅硬。白色筋状のゆ着割れ目が多いが、密度が高い。一部で開口割れ目化する。		GH'																												
									Bg							14																							
			+	緑灰	緑灰				142.32~142.43m: 50°程度の割れ目が交差し、径20~50mm程度に岩片化するが、砂や粘土は挟まない。		GH'																												
									Bg							14																							
			+	緑灰	緑灰				142.70~142.76m: 緑泥石により淡緑灰色を呈する。		GH'																												
									Bg							14																							
			+	灰褐	緑灰				143.48~144.50m: 径3~5mmの橙色のかり長石の斑晶が上下位よりも多く晶出する。		GH'																												
									IV s							19																							
			+	灰褐	緑灰				143.80~144.00m: 割れ目間隔20~70mmで45°のゆ着割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。		GH'																												
									IV s							19																							
			+	灰褐	緑灰				144.08~145.44m: 40~60°のゆ着割れ目が密集する。多くが開口化し易い。		GH'																												
									IV s							19																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給 庄 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
													N	0	10	20	30											40	50			
161			+	暗緑灰 にぶい橙	II s				160.40~161.45m: CM 堅硬。塊状。上下位に比べ割れ目がやや多い。割れ目に挟在物は分布しない。	22 (145)	CH'																					
162			+	緑灰 灰褐	IV s III s				161.10~161.69m: 径5mm前後の大型な緑色の緑泥石を斑点状に含む。161.10~161.24mは石基も緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。 161.45~166.65m: CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に幅1~2mmの白色粉状の主に高角度のゆ着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。ゆ着割れ目には石英脈状に挟むものもあり、橙色のかり長石が濃集する部分も含まれ、にぶい橙などの橙色系を呈する。緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目沿いでは殆んど分布せず、径2~5mmの斑状に露出する。 161.70~161.90m: 60°の割れ目交差部の一部で片状化するが、岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。 162.12~162.18m: 径10mm前後の大型な橙色のかり長石が点在する。	26 (26)	CM'																					
163			+	にぶい橙	Bg	bg	β	2	162.46~162.57m: 80~90°のゆ着割れ目が5~20mm間隔で平行に分布する。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	35 (66)																						
164			+	灰褐 にぶい橙 灰白 にぶい橙	II s				163.50~163.60m: 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが、岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が露出する。 164.00~164.30m: 径10mmの大型の橙色のかり長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。 164.50m: 径50mmの石英の晶洞で、長石などの2次鉱物を伴う。 164.94m: 70°の密着割れ目で、上端側に幅20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布する。上下端境界に劣化はない。 164.95~165.89m: 橙色のかり長石の含有量が上下位に比べ多くなり、にぶい橙などの橙色系を呈する。	37 (73)	CH'																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	変質	記号	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	標準貫入 (N値~深度) 図		室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔径保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)				
													原位置試験 (孔内水深・水量)	室												
166			花崗斑岩	にぶい橙		IIg	165.32m: 70°の割れ目は165.32mで径8mmの橙色のかり長石を横断する。また、交差する割れ目の一部も止めている。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。					CH'	0	50												
				灰褐				165.80~166.10m: 径10~20mmの石英が多く晶出する。一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。																		
				褐灰		IIIg		166.44~166.47m: 径10mmの斑状~長さ20~30mm・幅3mmのレンズ状で石英が晶出する。																		
167				暗緑灰				166.65~167.21m: CH 一部で高角度割れ目がやや多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。																		
				花崗斑岩		Bg	bg β 2	167.00m以深は緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。																		
168			灰褐			IVg	167.21~168.22m: CM 白色筋状のゆる割れ目が交差し岩片状に降っているが、岩片は堅硬で、挟在物は分布しない。																			
			暗緑灰				168.22~169.66m: CH 堅硬。塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主峰。白色筋状のゆる割れ目も含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。全体に緑泥石化し、径2~3mmの暗緑灰色の斑点状に晶出して点する。割れ目やゆる割れ目沿いに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は暗緑灰色を呈する。割れ目に粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱の晶出が認められる。																			
169			暗緑灰			IIg	169.19~169.41m: 緑泥石化が進み、暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬である。																			
			灰褐				169.66~172.69m: CH 堅硬。塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状のゆる割れ目が分布するが、密着度が高く、分離しない。 169.67~170.22m: 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出する。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水深・標準貫入)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 庄 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
														(N 値)	(値)														
			+	花崗斑岩	灰褐色					170.20~170.65m: 60~70° のゆる割れ目が数本分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	0 50 100			0 10 20 30 40 50															
171										褐灰																	II g	171.00~171.06m: 径10mmの大型の褐色のかり長石が点在する。	77 [83]
										171.29m: 35° と 87° の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。																		48 [87]	
172										灰褐色																	Bg	171.85m: 34° と 74° の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。	37 [82]
										172.32~172.53m: 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mmの石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。																			
173			にこい褐	III g	172.69~174.13m: CH 堅塊、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの粒状コアが主体、一部で緑泥石化し、割れ目やゆる割れ目に沿って細脈状~径1~3mmの斑点状に晶出する。割れ目面に砂や粘土は挟まない。細脈部に石英を伴うこともある。	28 [88]																							
174			褐灰	II g	173.66~173.73m: 密着度の低い潜在割れ目が10~20mm間隔で分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するが、粘土や砂など挟み物は分布しない。 173.93m: 43° の割れ目は径5mmの褐色のかり長石を横断する。また、43° の割れ目と交差する2条の高角度のゆる割れ目が見られる。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。 174.13~175.56m: CH 堅塊、塊状で一部の割れ目交差部でコア長約10cmに片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コアが主体、一部に白色筋状のゆる割れ目を含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	62 [100]																							

余白

H27-B-4

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 → (%) 最大コ ア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定日	(標準貫入) 試験					原 位 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) /孔壁保護	給 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	排 水 量 (L/分)											
													(N値~深度) 図																							
									10.15m : 炭分炭化した長さ100mmの木片を含む。																											
									11.03~11.52m : 含有礫は上下位に比べて小さくなる。																											
									12.05~12.20m : 花崗斑岩の大礫を含む。 12.24m : 木片混じる。																											
									12.51~12.63m : 炭分炭化した木片混じる。																											
									13.65~13.75m : 木片混じる。13.75m付近に合板を含む。																											
									13.75~14.00m : 花崗斑岩堆積物との境界は45°で明瞭。所々、斑晶が少なくアブライト様を呈する部分を含む。 13.75~14.67m : 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる。																											
									14.24m付近。65°の割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著である。																											
									14.53m付近。頁岩種を3割含む。上部からの崩壊物である。																											
									14.67~15.49m : 風化は若干弱くなり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い白色変質脈が見られるものがある。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状態	割れ目の形状	風化質	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水深・数等)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給 庄 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
														(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値													
16			花崗斑岩	にぎい橙	明黄橙	Dg	Vs	cg	2	15.06m, 15.09mにはそれぞれ43°, 55°の割れ目沿いに幅1~3mmのマンガンを挟む。 15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化する。砂~シルト状の灰白色の細粒物が見られる。コアも軟質である。 15.49~15.62m: 礫状コアを呈する。 15.62~15.91m: 30°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱である。	CL'																	
						オリブ黄	Eg	Vs	dg	3	●15.91~16.36m: 破砕部 15.91~16.36m: 粘土混じり礫状~粘土質礫状部 (粒) 上端72°でやや湾曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。上端には幅2~6mmの緑灰色粘土が不連続に分布する。オリブ黄色を呈する。 16.36~16.52m: 粘土状~礫混じり粘土状部 (粒) 上端不明瞭。下端76°で波打って連続。径2~5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。灰白色を呈する。幅25mm。 16.36~16.52m: 上位の破砕部と風化の影響で劣化が著しい。 16.52~17.03m: 40~60°の割れ目沿いの劣化が顕著で一部礫~砂状となる。 17.03~17.86m: 20°程度の低角度の割れ目が優勢で、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はガラつく。	D'																
17				黄橙	Dg			δ																				
18				浅黄橙			Vg			2	17.86~18.52m: コア表面のガラつきは幾分少ない。20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い。	CL'																
19			淡橙							18.52~24.55m: 30~60°の中角度の割れ目が主体で、割れ目に沿った褐色化が認められる。風化し軟質となった比較的大型の斜長石の斑晶が目立つ。 19.57~19.76m: 礫状コアが主体となる。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 庄 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	排 水 量 (L/分)													
															(N 値 ~ 深度) 図																										
												0 50 100			0 10 20 30 40 50																										
31											30.10~30.69m: 25° 前後の割れ目が見られる。 30.62~30.73m: やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条分布し、マンガンが幅3~5mmで挟在する。																														
32											31.77~31.93m: 25° 前後の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。 31.87~31.91m: 上端45° で幅3mmの暗緑灰色の粘土~シルトを伴う。下層40°。上下層の間はやや特色味を帯び軟質である。含まれる細粒部は不連続で、軟質な区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.05~32.72m: 割れ目沿いの酸化汚染が自立つ。 32.36~32.39m: 20° ~30° 程度の割れ目が平行して密集する。上下層の割れ目はマンガン汚染により黒色化しているが、割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.68~32.73m: 30° 程度の割れ目がほぼ平行して密集する。緑泥石の薄い脈が3条分布する。																														
33											33.00~33.62m: 30~50° の割れ目が専断し、割れ目によって明瞭な劣化が見られるものが多い。 33.00m, 33.46mの割れ目には幅2~5mm程度で緑色化が見られる。 33.30m: 割れ目には幅1~3mmの灰白色粘土化が見られる。																														
34											34.11~34.22m: 不規則な微細な割れ目が多い。 34.22m: 傾斜65° で幅8mmの石英脈を挟む。 34.30~34.42m: コアチューブ引き上げ時の擾乱により機械割れ目が集中し、碎~岩片状コアとなる。 34.55m付近、傾斜38° で局所的に連続しない細粒部を伴う。細粒部は途中でせん断し、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 34.78m, 34.79m: 傾斜50° で幅1mm以下の石英脈を挟む。後者の割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D L [%]	岩級区分	(標準貫入) 試験		室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)																																	
																(N値~深度) 図	(N) 値																																									
			花崗斑岩	花崗斑岩	浅黄	IVg	Cg	cg			35.32m: 傾斜40°で幅2~3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びる。	14	14	100	QL'	0	10	20	30	40	50																																					
																															IVg	Dg			35.60~35.78m: 35°程度のほぼ平行した割れ目が密集し脆弱となる。割れ目沿いに白~灰黄色の粘土脈が見られる所が多い。 35.72m付近は礫状であるが、挟在する細粒部は局所的に分布し、連続性に乏しく、35.70~35.72m間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 35.78~39.40m: 割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。 36.14~36.35m: 割れ目がやや卓越する。	14	14	100	CM'	0	10	20	30	40	50													
																															IVg	bg	Y 2		36.86~39.40m: 傾斜50~70°の割れ目が主体となる。 36.98~37.10m: 75°の割れ目に沿って幅12mmで白色化し、細礫~砂状となる。	14	14	100	CM'	0	10	20	30	40	50													
																															IVg	Bg			37.36m: 25°の割れ目によって幅4mmの暗褐色のシルト~砂が流入する。 37.36~37.96m: 割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。	22	22	100	CH'	0	10	20	30	40	50													
																															IVg	Bg	cg		38.08~38.96m: 挟在物を伴う割れ目は、38.53mの70°の1条のみである。	22	22	100	CH'	0	10	20	30	40	50													
						IVg	Cg			38.96m以深、割れ目によって劣化するものが多い。	19	19	100	CM'	0	10	20	30	40	50																																						
						IVg	Cg	cg		39.21m. 39.60~39.65m: 割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂~細礫状となる。	19	19	100	CM'	0	10	20	30	40	50																																						
						IVg	Cg	cg			19	19	100	CM'	0	10	20	30	40	50																																						
						IVg	Cg	cg			14	14	100	QL'	0	10	20	30	40	50																																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)						
															(N 値)	(値)														
46							Vg IVg	cg			45.10m: 割れ目に沿って上端側は一部、幅20mmで脆弱となる。絹雲母が散在し、緑色化が著しい。割れ目に細粒部は認められず、割れ目の上位側の脆弱部は局所的に分布し、連続性に乏しい。周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 45.42~45.62m: 微細な割れ目が密集し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い。 45.73~45.80m: 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の砂~砂状となる。	0 50 100			0 10 20 30 40 50															
																													8 [10]	100
47							Vs Bg IVg	bg	2		46.10~46.35m: 60~70°の割れ目が密集する。挟在物を伴う割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。 47.11~47.32m: 微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる。 47.36~47.53m: 高角度と低角度の割れ目が交差し格子状となる。割れ目に汚染は見られないが砂状の挟在物を伴う。 47.76~48.39m: 微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。 47.76~47.88m: 割れ目沿いのマンガン汚染が明確である。	0 50 100			0 10 20 30 40 50															
48							Vg IVg Bg		Y		48.39~48.43m: 破砕部 砂混じり粘土状~礫質砂状部 (Hc-2) 上端52°、下端45°。上端側は幅5~10mmでにぶい橙色を呈する砂混じり粘土状部、下端側は幅12~20mmで灰白色を呈する礫質砂状部からなる。両側の境界は波打っている。全体としてやや赤味を帯びる。幅30mm。 48.74m: 傾斜40°の割れ目に幅1mm以下の灰白~緑灰色粘土を挟む。下端側幅2cm程度は長石の白濁化が目立つ。 48.87m: 傾斜42°の割れ目とそれと直交する40~50°の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。 49.02~49.18m: 不規則な割れ目が発達する。 49.18m: 63°で、上端側幅20mmが劣化し脆弱となる。幅2mm以下の褐色粘土及び上端側の脆弱部は途中でせん流し、連続性に乏しい。周辺は幅5mm程度で緑色化する。周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 49.40m: 47°で幅2~4mmの白~黄褐色の鉱物脈を挟む。風化しやや軟質である。	0 50 100			0 10 20 30 40 50															
49							Dg Vs cg					0 50 100			0 10 20 30 40 50															
																											5 [10]	100		
49							Cg IVg					0 50 100			0 10 20 30 40 50															
																										1 [21]	100			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給 庄 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																																	
															(N値~深度) 図																																																																																																																																																																																																																																																															
51			+								50.09m : 15~70° の湾曲した開口割れ目に幅5mmのマングンを挟む。	0																																																																																																																																																																																																																																																																		
																															Eg	Vg				50.39~50.60m : 劣化し全体が軟質で、表面は砂状となる所がある。	8	40	100																																																																																																																																																																																																																																							
																																																													IVg				50.58~50.92m : 白色粘土細脈が不規則に分布する。	11	111	100																																																																																																																																																																																																										
																																																																																											Cg	Vg			51.20~51.43m : 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目沿いに幅1mm以下でにぶい褐色粘土を挟む所が多い。	11	111	100																																																																																																																																																																												
																																																																																																																									IVg				51.66~51.97m : 30~50° の微細な割れ目が非常に卓越し軟質となる。	11	111	100																																																																																																																																														
																																																																																																																																																							Dg				52.11~53.35m : 傾斜20° 以下の微細な割れ目が1~3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	11	111	100																																																																																																																
																																																																																																																																																																																					cg	γ	2		52.38~52.44m : 微細な割れ目が密集し、局部的に礫状となる。上端側の割れ目に幅4mmのマングンを挟む。	11	111	100																																																																																		
																																																																																																																																																																																																																			Vs				52.90m : 45° で幅4mmの変質した黄褐色粘土脈を挟む。褐色汚染が明瞭である。	11	111	100																																																				
																																																																																																																																																																																																																																																	Cg				53.54~53.59m : 割れ目沿いの変化が明瞭で、一部は細礫~砂状となる。	11	111	100																						
IVg				54.66~54.73m : 50~60° のほぼ平行な割れ目によって劣化し、一部礫状となる。褐色汚染も顕著に見られる。	11	111	100																																																																																																																																																																																																																																																																							
																														Cg				54.96~55.55m : 傾斜20° 以下の割れ目が非常に卓越する。	11	111	100																																																																																																																																																																																																																																									
																																																												Vg																																																																																																																																																																																																																		
																																																																																										IVg																																																																																																																																																																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																								
															(N値~深度) 図																																																																						
56			花崗斑岩 [ニシシ]橙	I II III IV V VI VII VIII IX X XI XII	Cg	Vs	cg	γ 2			55.56m : 50° の割れ目間に幅8mmで黄褐色の砂を挟む。褐色汚染も明瞭である。	7 40 100	CL'	0	10	20	30	40	50																																																																		
57																																Bg	Vs	bg	56.45~56.61m : 高角度と低角度の割れ目が交差し亀甲状となる。	14 100	CL'	56.74m : 71° で幅3mmの褐色粘土を挟む。	56.88~56.98m : 約50° のほぼ平行した数個の割れ目が卓越し、一部礫状となる。	14 100	CL'	0	10	20	30	40	50																																						
58																																																											Bg	Vs	cg	57.24~58.50m : 多くの割れ目に褐色汚染が見られる。	14 100	CL'	57.54~57.74m : 傾斜50~66° の割れ目沿いに劣化し、軟質である。幅1~3mmの黄褐色粘土を挟む。	14 100	CL'	0	10	20	30	40	50												
59																																																																																					
																																																											Bg	Vs	cg																								
																																Bg	Vs	cg																																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状態	割れ目の形状	風化質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q C D L [%]	岩級区分	標準貫入 () 試験		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給 庄 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
												(N 値)	(値)																	
				花崗斑岩	Bg	bg			75.05~75.29m: 20~40° の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する。																					
		46.97	76.25		Cg	Vg			75.97~76.25m: 割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。																					
				アプライト	Dg				76.17m: 傾斜51° で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。上端側は一部灰白色粘土が割れ目状に分布し、実質が進む。 76.25~77.80m: アプライト 径1~2mmの石英、長石、黒雲母を2~3%含む。上下端の境界はゆるぎ不連続。 76.61m: 傾斜54° で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。																					
				淡橙	IVg	cg			76.80m: 傾斜45° で幅1~6mmの砂混じり灰白色粘土を挟む。 76.90m: 傾斜50° で幅1~3mmのマンガンを挟む。																					
		48.06	77.80		Vg				77.19m: 傾斜50° で幅5mm程度の黄褐色粘土を挟む。																					
					Dg		γ 2		77.48~77.67m: 20° 程度の低角度割れ目沿いに劣化が見られ、コアは軟質でざらつく。77.55~77.60m間はマンガンを集める。																					
					IVg	bg			77.96~78.08m: 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の砂状の挟在物を伴う。																					
					Vg	cg			78.21~78.51m: 多方向の割れ目が見られ、やや脆弱である。 78.29m: 傾斜24° で幅10mm程度が砂~細片状を呈する。																					
					Vg	bg			78.47~78.71m: 割れ目沿いにマンガンの汚染が目立つ。																					
				花崗斑岩	Bg	IVg																								
					Cg	Vg																								
					Bg	IVg	cg																							
					Vg				79.45~79.57m: 短い筋状のマンガンの汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。																					
					Bg	IVg	bg																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水深・水温)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															(N値~深度) 図																		
81			+	淡橙						2		0	CM'																				
																														Bg	IVg	bg	
																														Dg	Vg	cg	
																														Cg			
82			+	花崗斑岩						2		CM'																					
																															Bg		
83			+	にぶい橙						2		CM'																					
																															Bg		
84			+							2		CL'																					
																															Dg	Vg	cg

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															(N値~深度) 図																							
												0 50 100			0 10 20 30 40 50																							
91							Bg IVs	bg			90.64m: 傾斜54°で幅2mm程度のマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度緑色化する。 90.75~91.96m: 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の顕在化した割れ目で止まっているものが多い。50°以下の割れ目に細粒部は伴わない。もしくは途中でせん断し、連続性に乏しく、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	17 (17)	CM'																									
92							Cg cg	cg		2	91.45m: 48°で幅6mmが緑色を帯びる。割れ目に挟在する細粒部はせん断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	8 (8)																										
93							Dg Cg				92.55~92.71m: 多方向の割れ目が交差し亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	8 (8)	CL'																									
							Eg VIg dg IVs Cg Vg cg	dg		3	●93.13~93.22m: 破砕部 93.13~93.14m: 粘土状部 (Hs-1) 傾斜30°。淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端30°。下端50°でいずれも直線的に連続。径2~10mmの岩片主体で岩片間にわずかに灰白色粘土細脈を挟む。にぶい黄褐色を呈する。幅67mm。	14 (14)																										
94							Bg IVs bg Vg cg Cg IVs bg Vg cg	bg		2	94.38~94.40m: 2本の割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で、この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	13 (13)	CM'																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給 庄 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																
														(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値																																																																																																																																																																																																																										
—121			+	花崗斑岩	にんじょう黄橙	IVs	cg			120.05m ~ 120.07m: 傾斜40°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。	0 50 100	CM'			0 10 20 30 40 50																																																																																																																																																																																																																										
																											—122			+	花崗斑岩	洗黄橙	IIIk			120.31m付近、35°の平行な割れ目が密集し、マンガンを含む。 120.40m ~ 40°の比較的シャープな割れ目に緑灰色の変質帯と幅2mmの褐色化が顕著に見られる。 120.40~122.54m: 堅硬な柱~長柱状コアからなる。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	32 (54)																																																																																																																																																																																																				
																																																					—123			+	花崗斑岩	洗黄橙	IIe			121.60m: 傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の挟み物が見られる。	28 (63)																																																																																																																																																																										
																																																																															—124			+	花崗斑岩	洗黄橙	Bg			122.46m: 傾斜50°の割れ目の周囲が変質により緑色を帯びる。絹雲母が散在し、褐色汚染も顕著である。 122.54~123.84m: 顕在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。	36 (36)																																																																																																																																																
																																																																																																												+	花崗斑岩	洗黄橙	IVg			123.00~123.26m: 高角度の割れ目に幅1~6mmのマンガンを含む。割れ目が密集し脆弱である。 123.15m: 傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度で褐色化する。	8 (10)																																																																																																																						
																																																																																																																																						+	花崗斑岩	洗黄橙	IVg			123.85m ~ 60°で幅3mmの褐色に汚染された砂を挟む。																																																																																													
																																																																																																																																																																+	花崗斑岩	洗黄橙	IIg			124.09~125.20m: 柱状コアが主体となり、岩質も硬い。	8 (11)																																																																		
																																																																																																																																																																																										+	花崗斑岩	洗黄橙	IVg																																												
																																																																																																																																																																																																																			+	花崗斑岩	洗黄橙	IIg																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水深・水温)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													(N)	(m)											
126			+	花崗斑岩	にがい黄橙	Bg	IIg	γ 2	125.37m付近、局部的に微細な割れ目が密集する。	0	CH'														
							IVg																		
127			+	花崗斑岩	にがい黄橙	Bg	IIIg	γ 2	126.34~126.69m: 柱状コアであるが、褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。	20	CM'														
							IVg																		
128			+	花崗斑岩	にがい黄橙	Bg	Cg	γ 2	127.00~127.83m: 不規則で微細な割れ目が発達する。 127.06~127.30m: 軟質でコア表面はザラつく。変質により割れ目に沿って緑色を帯びる所がある。 127.19~127.22m: 傾斜62°で幅0~10mm程度で局部的に灰白色粘土、一部赤褐色粘土を挟む。	12	CL'														
							IVg																		
129			+	花崗斑岩	にがい黄橙	Bg	Vg	γ 2	128.26~128.76m: 微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見られる。	8	CL'														
							IVg																		
			+	花崗斑岩	明黄橙	Bg	Vg	γ 2	128.90~129.15m: 一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。	3	CM'														
							IVg																		
							Cg		129.98~130.50m: 傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。																

余白

H24-D1-5

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
														N	値																	
				盛土	にぶい黄褐色																											
		2.27 7.41		花崗斑岩	にぶい橙	Vs cg	3			7.41~54.00m: 花崗斑岩 径1~10mmの石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。19m以深は斑晶の量が少なくアブライト様を呈する部分もある。 7.41~8.51m: 風化で著しく軟質化するが、原岩組織はほぼ残留し、割れ目は一部で消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目周辺の幅5~10mmが褐色化して白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土鉱物は殆んど分布しない。上端には幅1cm程度のモルタルが付着する。 7.45m: 傾斜40°の割れ目は、交差する傾斜30°で幅2mmの石英脈を止めている。割れ目には埃状物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 7.89m: 傾斜50°の割れ目に幅1~3mm程度のマンガンを含み、割れ目周辺は幅3~5mm程度で緑色化する。 8.00~8.08m: マンガン汚染が顕著で径2~10mmの岩片を15~20%程度含む。 8.48m: 傾斜45°で幅5~10mmが緑泥石化により緑灰色化する。粘土化は伴わない。 ●8.51~8.71m: 破砕部 8.51~8.66m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°でほぼ直線的にシャープに、下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の原岩組織が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色粘土脈からなる。8.51~8.54mは粘土分が多い。淡黄~にぶい橙色を呈する。 8.66~8.69m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅25~30mm。 8.69~8.70m: 粘土状部 (Hc-1) 上端60°でやや波打る。下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3~8mm。 8.70~8.71m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端60°で直線的に、下端65°でほぼ直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径3~5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅3~10mm。 8.71~10.19m: 著しく軟質化し、原岩組織は一部で残留するが、割れ目は大半が消滅する。9.50~10.19mでは傾斜30~40°とこれに斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目の一部が残留する。																						
					にぶい黄褐色	Vs dg	3																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給 庄 (kW・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																																																																										
															(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値																																																																																																				
16			花崗斑岩	褐色			Bg	IIg			16.18~16.72m: 上位より若干風化が進み、割れ目沿いの一部やコア表面の一部が砂状化する。傾斜50~60°の割れ目が主体である。粘土脈は挟まない。	0 50 100	CH'		0 10 20 30 40 50																																																																																																					
17																														明褐色			Bg	IIIg	2	16.72~17.14m: 傾斜40~50°の割れ目が平行に分布し、割れ目沿いの砂状化はなく、粘土脈も挟まない。17.07mに傾斜50°で幅1~2mmのやや湾曲した石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にはわずかに径0.1mmの微細な金属鉱物が晶出する。17.07m: 傾斜50°で幅1~2mmのやや湾曲した石英脈を挟み、径0.1mmの微細な金属鉱物が晶出する。	0 50 100	CH'		0 10 20 30 40 50																																																																												
18																																																										明褐色			Cg	IVg	cg	δ	17.14~18.17m: 上位より若干風化が進み、割れ目の一部で砂状化~径3mm前後で薄片化する。粘土脈の存在は少ない。傾斜30~50°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目も分布する。18.06~18.09m間は割れ目の褐色化が進む。	0 50 100	CH'		0 10 20 30 40 50																																															
19																																																																																							明褐色			Dg	Vg	dg	3	18.17~18.64m: 風化で軟質化する。割れ目は一部で消滅するが、傾斜40~50°の割れ目や低密着割れ目の一部が残留する。割れ目の一部は砂状化~径5mm前後に薄片化する。粘土脈は18.28mの傾斜35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mmで軟質な白色粘土が分布するのみで、他の割れ目には分布しない。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																		
																																																																																																																				明褐色
				明褐色			Dg	Vg			18.78~19.11m: 風化で軟質化し、割れ目の一部は消滅するが、傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土化部は分布せず。粘土脈も挟まない。18.90~19.03m間は周辺よりやや硬質である。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																																																																																																					
																														明褐色			Cg	IVg	cg	2	19.11~20.10m: 傾斜40~60°の割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する10~30°の割れ目が現れる。割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																																																																											
																																																										明褐色			Bg				19.50~19.67m: ベグマタイト傾斜65°で幅約100mm、最大径25mmの石英、径20mmのかり長石などからなる。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																																															
																																																																																					明褐色							19.66m: 傾斜58°の割れ目は連続せず、交差する傾斜10°の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																				
																																																																																																																明褐色				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	標準貫入 () 試験		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給 庄 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																							
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																																		
			+++++	灰 褐							<p>25.30~25.32m: 傾斜45°で幅10mm程度が砂状~径5mmに細片化する。</p> <p>25.80~26.95m: 傾斜30~50°の割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行に10~15cm間隔が主体で分布する。一部でこれらと斜交~直交する10~50°の割れ目も分布し、26.41m~26.47mでは面系統の割れ目が交差し、径20~30mmの硬質岩片に細片化するが、砂~粘土化部は伴わない。割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。</p> <p>26.95~27.20m: 割れ目間隔3~10cmで割れ目がやや多いが、割れ目の挟在物は分布しない。</p> <p>27.20~28.48m: コア長20cm以上、傾斜0~10°の割れ目が主体で、挟在物は分布しない。</p> <p>28.48~30.20m: 傾斜40~50°の割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。一部の割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化し、コア表面はにがい橙色を呈するが、砂状化などの劣化は伴わず、粘土や粘土脈も挟在しない。所々、マンガン鉱染で黒褐色化する。</p> <p>29.20m以深では、一部に傾斜40~50°とこれらに斜交~直交する低密着割れ目も有り、ハンマーの打撃で10cm以下に分離することがある。</p>		CM'																																				
26																																																	
27																																																	
28																																																	
29																																																	
														+++++	花崗斑岩							<p>29.20m以深では、一部に傾斜40~50°とこれらに斜交~直交する低密着割れ目も有り、ハンマーの打撃で10cm以下に分離することがある。</p>		CM'																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																					
														(N値~深度) 図																																																																																																																	
31			+	花崗斑岩	にこい橙	Bg	IVg	bg	γ		30.20~30.35m: 傾斜30~40°の割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	0		0	10	20	30	40	50																																																																																																												
																															32			+	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	δ	2	30.57~30.77m: 傾斜20~40°の割れ目が分布するが、割れ目は少ない。割れ目に挟在物は分布しない。 30.77~31.57m: 風化でやや軟質化する。傾斜30~50°の割れ目と一部でこれらに斜交~直交する30~50°の割れ目も分布する。また、同傾斜の低密着割れ目も31.40~31.57mに多く分布する。割れ目沿いに薄く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土脈の分布は少ない。 31.06m: 傾斜50°で幅1~2mmの風化して軟質な黄褐色粘土脈を挟む。 31.42m・35°, 31.52m・45°の各割れ目の下端側は幅12mm、幅30mmで砂状化する。 31.44m: 傾斜40°の割れ目の下端側幅10~20mmがマンガン鉱染で黒褐色化する。 31.57~32.68m: 傾斜30~50°の割れ目を主体とする。	100		100																																																																																			
																																																															33			+	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IVg	cg	γ	32.60~32.76m: 上下端を傾斜45°の割れ目で閉まれ、風化で砂状化する。上層は一部で幅4mmの軟質な明黄褐色粘土を伴うが、粘土は連続しない。 32.76~33.96m: 割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部これに斜交~直交する10~40°の割れ目も分布する。また、同傾斜の低密着割れ目も33.40~33.60mに多く分布する。	100		100																																																			
																																																																																															34			+	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IVg	cg	γ	33.80m: 傾斜50°の割れ目は、交差する傾斜25°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 33.86m: 傾斜25°で幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 33.96m: 傾斜55°の割れ目の上端側は幅10~20mmで弱くマンガン鉱染を受け、下端側はやや軟質化する。 33.96~35.06m: 風化で、多くの割れ目沿いは砂状化し、幅1mm前後の軟質な白~明黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。一部の割れ目は消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明確に残留する。傾斜20~40°の割れ目が主体で、これらに斜交する40~70°の割れ目も分布する。35.05mに傾斜50°で幅4mmの軟質な明赤灰色の粘土脈を挟む。	100		100																			

